

## 2008年3月25日開催 第526回 番組審議会

### ■ 出席委員

荒巻裕委員長 櫻井美幸副委員長 大村英昭委員 神谷徹委員  
國定浩一委員 黒田勇委員 東野博昭委員

### ■ 毎日放送出席者

山本会長 河内社長 田中専務 上田専務 山西常務 松島常務  
西岡ラジオ局長 三村制作局長 東編成局長 熊報道局長  
木田コンプライアンス室長

### ◆ 審議事項

#### 「MBSの番組について。放送全般について」

毎日放送の第526回番組審議会は3月25日大阪市北区の本社で開かれました。今回は個別の番組審議ではなく、「MBSの番組について。放送全般について」というテーマで意見を交換しました。

委員の主な意見は次の通り。

- \* 4月編成でいろいろ番組が変わるが、基本的なスタイルはかわらず落ち着いてくれている番組のほうになじみがあっていい。見ていて安心感があり楽しめる。こころ中身が変わるのは、ついていけない。
- \* このところの放送をめぐる動きを見ていると、政府、総務省のメディア規制というか、介入が気になる。
- \* スーパーリージョナルな放送局を目指すMBSにとって大事なことは、今をどうとらえるかというジャーナリズム力、地域の独自資源を開発、発信できること、地域の受け手と密着していることの、3つだ。

- \* 毎日放送は、おだやかな中にも、時には針で刺すような鋭さを持っている局。  
「ちちんぷいぷい」をつけっぱなしにしながら家事をしている女性が多いと聞く。安心感というか、おだやかな感じがある。一方では、大阪市のカラ残業問題のように、特ダネゲリラ的な活動もしているという真面目さもあわせもった、バランスのとれた放送局だ。
  
- \* ニュースがあれだけおもしろくなるのだと、「VOICE」を見ての感想。視聴者からの情報をうまく取り入れ、手間のかかるていねいな取材をしているのがポイントだと思うが、企画によっては視聴者の怒りをかきたてる要素があるので気になる。
  
- \* ラジオ報道の番組が、朝の時間帯からナイター後の時間帯に移るが、ナイターが終わる時間は日によってまちまちだろうから、落ち着いて聞いてもらえるか少し危惧する。  
テレビ全般として、いわゆる、おバカ度を売り物にしたクイズ番組など同じような番組が多く、安易さを感じる。オリジナリティーのある番組を。
  
- \* ラジオでニュース報道色を強く盛り込んだ番組を作る時の構成や作り方が、ややワンパターン化しているのではないか。これまでの経験を踏まえた上で、一歩抜け出すと言うか、脱皮したニュース報道番組にチャレンジしてほしい。

## ◆ 報告事項

### テレビ・ラジオの4月編成について

テレビ、ラジオの4月編成の概要・特徴について、編成局長とラジオ局長がそれぞれ報告しました。

## 委員の交代について

大村英昭委員、藤原健委員が3月例会を最後に退任されました。

そして新たに(株)マザーネット社長の上田理恵子さん、毎日新聞大阪本社編集局長の岸本卓也さんに委員を委嘱しました。